

私大図協・東・研・2007-65  
2007年10月26日

加盟大学図書館長 殿

私立大学図書館協会  
東地区部会研究部担当理事校  
東京経済大学図書館  
館長 石井 寛治  
【公印省略】

### 2007年度研究分科会報告大会開催のご案内

貴館におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
さてこの度、標記研究分科会報告大会を下記の通り開催することになりました。  
つきましては、館務ご繁忙のところを誠に恐縮ですが、貴館職員の参加につきましてご高配いただきたくよろしくお願い申し上げます。  
なお、参加申込につきましては、お手数ですが、同封参加申込書へ必要事項を記入の上、ファックスにて11月26日(月)までにお申し込みいただきますようお願いいたします。

#### 記

1. 日 時 2007年12月13日(木) 9:20~16:25  
14日(金) 9:20~16:05
2. 定 員 各70名  
\*参加希望者が定員をオーバーした場合、申込順に1名/1大学(各大学1番該当者)とさせていただきます。
3. 会 場 帝京大学メディアライブラリーセンター 情報学習室(2階)  
〒192-0395 東京都八王子市大塚3-5-9  
アクセスマップ  
<http://www.teikyo-u.ac.jp/access/hachi/hachioji.html>
4. 発表概要(発表日・発表時間)  
次頁掲載のとおり。

北海道地区研究分科会の発表は、東地区部会研究部運営委員会ならびに、東地区部会長校の承認により、次のように別途行われます。

日 時 : 2007年12月7日(金)  
場 所 : 北海学園大学7号館4階D4-1教室  
発表者 : 札幌学院大学図書館 京谷正博  
テーマ : 北海道地区研究分科会の活動について  
- 札幌学院大学図書館情報リテラシーガイダンス事例紹介 -

## 12月13日(木)

### (13A)【西洋古版本研究分科会】 (9:30~10:20)

西洋古版本の構造とその書誌作成

(研究発表要旨)

15世紀半ばにグーテンベルクによって発明されたといわれる活版印刷術は、その後19世紀初頭までの間、大きな変化をみることなく継承されていった。今回の発表では、その印刷術によって印刷された資料の構造について、また、古版本を同定させる上で重要となる詳細書誌とその作成方法を紹介する。

発表者： 坪谷 卓浩(日本体育大学図書館) 松尾 亜子(早稲田大学図書館)  
泉 浩三(東京薬科大学情報センター) 井原 亜由美(立教大学新座保存書庫)

### (13B)【和漢古典籍研究分科会】 (10:25~11:15)

和漢古書の情報を読む - 複雑さと個性の世界 -

(研究発表要旨)

和漢古書を図書館資料として現行の目録規則で扱おうとする場合の問題点はどのようなものなのか。書誌記入の具体例を示しつつ専門知識の必要性を述べる。次に古書に数多捺された蔵書印について、その情報価値を主に伝来の観点から紹介。魅力と奥深さを知ってもらう。最後に和漢古書を適切に組織化・活用出来る大学図書館員が真に求められている状況を訴え、来期の会員募集へと繋げて行く。

発表者： 沼田 晃佑(身延山大学図書館) 細野 美里(立教大学図書館)

### (13C)【L-ラーニング学習支援システム研究分科会】 (11:25~12:15)

大学図書館員のためのブレンディッド・ラーニング

- Moodleを使ったエルラー的システムの構築 -

(研究発表要旨)

本研究の目的は、図書館員が自己学習でスキルアップできる学習支援システムの構築である。今期は、Moodleを基盤として、YouTube、Podcast、携帯電話を活用したブレンディッド・ラーニングにゲーム性をプラスしたシステムを提案する。今後は、システムの公開と評価へと研究を進め、更なるL-ラーニングの普及を目指す。

発表者： 田代 陽子(日本女子大学図書館) 阿部 潤也(東京歯科大学図書館)

### (13D)【レファレンス研究分科会】 (13:15~14:05)

レファレンスサービスと情報リテラシー教育

- 国公立大学図書館の取り組み事例 -

(研究発表要旨)

レファレンスサービスの質の向上や利用者の利便向上を考える上で、レファレンスと、図書館ガイダンス等の情報リテラシー教育は、密接な関係にあると考えられる。

この情報リテラシー教育に関して、ガイダンスだけでなく授業科目を開講しているなど、多様な取り組みを行なっているいくつかの国公立大学図書館の取り組み事例の考察を行なった。

発表者： 小坏 守(立教大学図書館) 中澤 恵子(日本女子大学図書館)  
竹澤 弘恵(聖心女子大学図書館) 三上 彰(桜美林大学図書館)

### (13E)【情報リテラシー教育研究分科会】 (14:10~15:00)

情報リテラシー教育 業務マニュアル骨子の整備化

- 図書館員が主体となって企画・運営する情報検索ガイダンス -

(研究発表要旨)

業務マニュアルを「企画～広報～準備～実施～事後対応」の流れに基づいて作成した。今回の報告が、図書館による情報リテラシー教育をまだ導入していない大学図書館関係者にとって業務を企画・運営する初期段階としての参考となり、また、既に企画・運営している関係者にとって現在の業務を見直すきっかけになることを期待している。

発表者： 内堀 勇二（立教大学図書館） 伊藤 親子（中央大学図書館）  
荒井 啓太（桜美林大学図書館） 樋口 知義（東洋大学附属図書館）

(13F)【パブリック・サービス研究分科会】 (15:15～16:25)

2006-2007年度 パブリック・サービス研究分科会活動報告  
- Elegant な Librarian をめざして -

(研究発表要旨)

図書館員としての専門性の向上を目指し受講した講義と、会員の所属する図書館見学・事例研究についてその概要を述べる。

さらに、2つに分かれて行ってきたグループ研究活動について報告する。「図書館評価」グループは更に4つのグループに細分し、自己点検のためのチェックリスト・指標の作成、実施した。「入館者推移からの考察」グループは様々な大学の入館者数の推移を調べ、入館者数増減の要因や各大学の入館者数増加に向けた取り組みについて調査した。各々の検証結果をご覧ください。

発表者： 東家 由朗（上智大学図書館） 千家 慶子（國學院大學図書館）  
二塚 恵理（国立音楽大学附属図書館） 田辺 朋子（国土館大学附属図書館）  
藤原 美佳（駒澤大学図書館） 成田 暁（大東文化大学図書館）  
小松 泰亮（東京家政学院大学附属図書館） 今井 智子（文化女子大学図書館）  
椎名 ちか子（明治学院大学図書館） 辻本 幸彦（立教大学図書館）  
坂下 明子（創価大学図書館） 杉田 典子（東海大学付属図書館）  
水野 里永子（文化女子大学図書館）

12月14日(金)

(14A)【逐次刊行物研究分科会】 (9:30～10:20)

学術情報の周縁 - 電子ジャーナル契約の今後とオープンアクセスについて -

(研究発表要旨)

今日外国語雑誌の電子ジャーナル化が急速に進み、大学図書館で収集する形態も変わりつつある。そこで、電子ジャーナルの契約に際し、公私立大学図書館コンソーシアム(PULC)について参加館の事例を含め紹介していく。

また、今後発展が見込まれるオープンアクセスについての現状をアジア（特に中国・韓国）を中心に紹介する。

発表者： 岡田 光世（東邦大学医学メディアセンター）  
小室 啓子（文教大学湘南図書館） 高野 麻子（専修大学図書館）  
田村 直規（鶴見大学図書館）

(14B)【分類研究分科会】 (10:25～11:15)

NDC発展の可能性を探る - 教育分野の検討から -

(研究発表要旨)

当分科会は、過去2期にわたりBC2、DDCにおける教育分野の分類法を研究してきた。今期はそれを継承し、NDC9版教育分野についてこれまでの研究経緯および9版改訂前後の出版状況をふまえ改編を試みた。その実験版を、過去の研究と同様に教育分野の用語に付与することで性能を検証し、あわせて、現在10版への改訂に動いているNDCへの提言を考える。

発表者： 藤倉 恵一（文教大学越谷図書館）

(14C)【企画広報研究分科会】 (11:25~12:15)

図書館広報活動の共有化と相互支援

(研究発表要旨)

企画広報研究分科会では、図書館広報活動の共有化と相互支援を目的に、パスファインダーバンク、Lib.PR:図書館広報実践支援サイトの運営をしている。今期は、これらのサイトのさらなる活性化と図書館員の広報活動の支援を積極的に行うために、下記の活動を行なった。本報告では、これらの活動の内容と成果を報告する。

(1)パスファインダーバンクへの登録依頼

(2)パスファインダーバンク、Lib.PR:図書館広報実践支援サイトの活性化を目的とした「図書館広報実践講座」の開催

(3)新しいデザインの図書館広報グッズ「本の葉」「ビニールバッグ」の企画・販売

発表者： 石川 敬史(工学院大学図書館) 清水 弥生子(東洋学園大学図書館)  
高橋 瑞江(桜美林大学図書館) 萩原 朝子(東洋英和女学院大学図書館)  
中山 絵里(東洋大学図書館) 関口 千登世(城西大学水田記念図書館)  
遠山 有紀(学習院大学法学部・経済学部図書センター)

(14D)【メタデータ研究分科会】 (13:15~14:05)

メタデータ研究分科会活動報告

(研究発表要旨)

今期はダブリンコアに準拠したメタデータ入力システムを用いてメタデータ作成実験を行ってきた。目的は実際にメタデータを作成するという体験からメタデータ記述規則の批判と、図書目録規則との相違をとらえようとするものであった。その報告をする。(時間があれば)また、メタデータ研究分科会は今期で活動を終了する。6年間の活動を総括する。

発表者： 鈴木 学(日本女子大学西生田図書館)

(14E)【図書館運営戦略研究分科会】 (14:10~15:00)

図書館業務における外部委託の現状について

(研究発表要旨)

研究テーマに沿って、図書館運営への意識の育成を目指しており、今回は先のグループのテーマを踏襲して活動を行っております。活動に携わって分科会参加館の図書館業務を確認したところ、分館業務において然り、閲覧業務や遡及業務および目録業務等においても昨今は専任職員だけで成り立っていない状況が発生しております。当分科会は今期のテーマを外部委託の現状をしっかりと見ていく事とし、受託会社に現状を説明して頂き、大学図書館の運営にとって、どうあるべきかを考察しましたので報告します。

発表者： 櫻井 友美(国土館大学附属図書館) 山上 良子(目白大学新宿図書館)  
海老原 徹(横浜商科大学図書館) 徳本 克彦(駒澤大学図書館)

(14F)【相互協力研究分科会】 (15:15~16:05)

「相互貸借、特に利用者からのオンライン申込に関するアンケート」集計報告

(研究発表要旨)

インターネットなくして図書館サービスはあり得ない今日、ILL業務もまた、大きな転換期を迎えている。当分科会ではこのような状況を踏まえ、今期「利用者によるILLオンライン申込」をテーマにアンケートを実施した。

集計結果から私立大学図書館協会東地区部会加盟館におけるweb申込の現状を分析する。

発表者： 清水 ゆかり(杏林大学医学図書館) 豊島 寛(麗澤大学図書館)

以上